

# 東京2020オリンピック・パラリンピック、 ラグビーワールドカップ2019 に向けた府中市の取組



## 府中市の取組

### 府中市東京オリンピック・パラリンピック等関連事業 推進プロジェクト基本方針の策定（平成27年11月）

#### 基本的な考え方

オリンピック等の開催を契機に、スポーツタウン府中の更なる推進を図るとともに、本市の魅力を世界に発信します。さらに、未来を担う子どもたちに夢と希望を与え、都市としてのにぎわいと活力を生み出し、本市が持続的に発展することを目指し、市民との協働により全市を挙げて、オリンピック等の成功に向けた取組を推進します。

## 取組の方向性

### ～ 5本の柱～

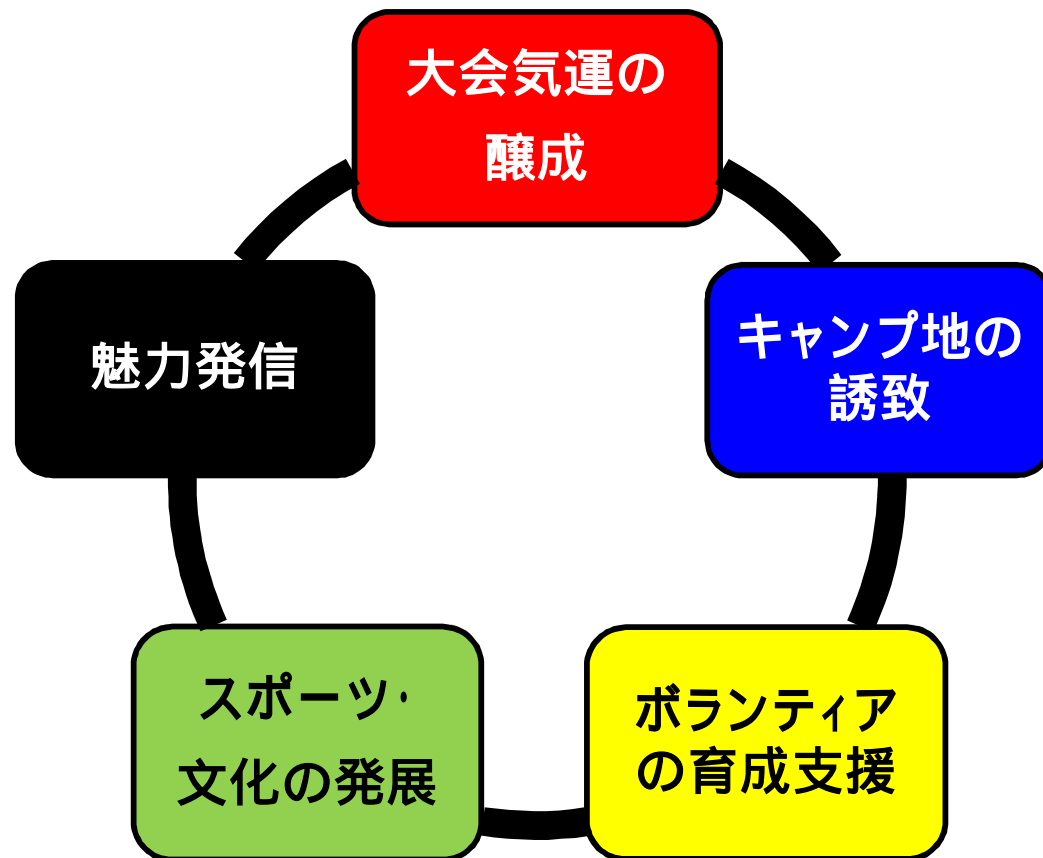
大会気運の醸成

キャンプ地の誘致

ボランティアの育成支援

スポーツ・文化の発展

魅力発信



## 「Road to 2019-2020 ～レガシーの創出に向けて～」 (府中市東京オリンピック・パラリンピック競技大会等関連事業推進アクションプラン) の策定(平成28年11月)

基本方針で定めた取組の方向性をより**具体化**し、オリンピック等の開催までに**本市が実施する事業**、及びその事業の実施により**創出されるレガシー**を示したものの。

### 【特徴】

- ・全54の取組を掲載(毎年度改訂予定)
- ・取組ごとに、平成28年度から平成32年度までの事業計画を定める
- ・事業実施の成果と大会後のレガシーを掲載

**レガシー**とは  
オリンピック等の開催に伴って生み出される後世に残すべき有形又は無形の遺産のこと。

# 大会気運の醸成

# 大会気運の醸成

## 【主な取組】

- オリンピック・パラリンピック教育の推進
- 大会の気運を高めるイベント・スポーツ大会等の実施
- 大会関連ブースや啓発物品等による大会PR活動の実施
- 東京都や組織委員会、近隣自治体等と連携した取組の実施
- 聖火リレーの誘致
- 市職員を対象とした大会気運の醸成

## 【取組によるレガシー】

- 市民がスポーツに親しみ、スポーツイベントへの参加意識が向上
- 国際交流や伝統・文化、ボランティアなどへの、子供たちの理解の深化
- 自治体連携の強化による、様々な分野での施策展開

# 大会気運の醸成

## ▶オリンピック・パラリンピック教育推進校における取組の実施



市立小中学校全校において、オリンピックやパラリンピアン等の選手との交流をはじめ、オリンピック・パラリンピックの歴史・意義、世界の国々等について学ぶ。

## ▶近隣自治体と連携した取組の実施（府中調布三鷹ラグビーフェスティバル）



オリンピック及びラグビーワールドカップの会場となる東京スタジアム（味の素スタジアム）に隣接する府中市、調布市、三鷹市が連携して、ラグビーイベントを開催。



# 大会気運の醸成

## リオデジャネイロオリンピックでのパブリックビューイング等の実施



サッカー男子日本代表戦のパブリックビューイングを実施。これに先立ちリオデジャネイロオリンピック男子サッカー日本代表に選出されたFC東京所属選手2名の壮行会を実施。

## リオデジャネイロパラリンピック出場選手壮行会の実施



本市にゆかりのあるリオデジャネイロパラリンピック日本代表選手4名の壮行会をフォーリス光と風の広場で実施。



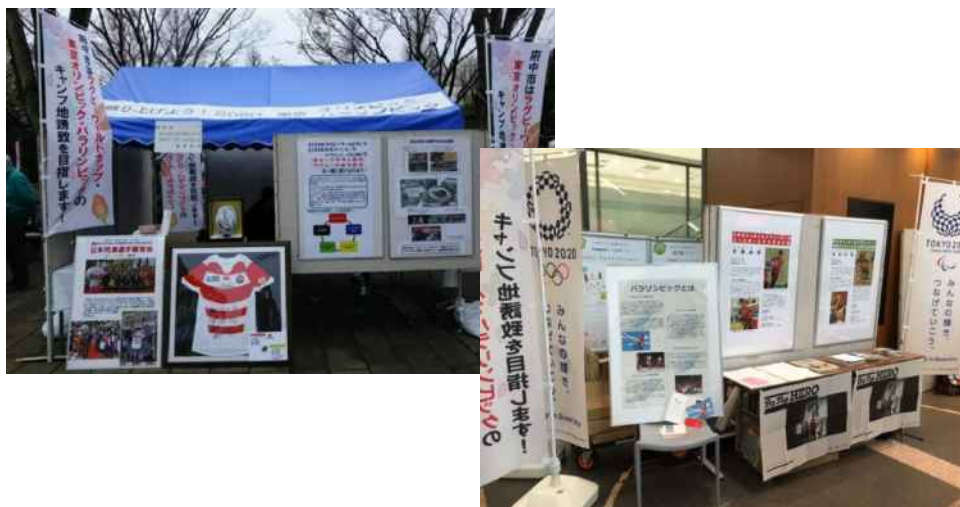
# 大会気運の醸成

## ラグビーワールドカップ2015日本代表報告会の実施



ラグビーワールドカップ2015で活躍した東芝・サントリー所属の日本代表選手による報告会をけやき並木で開催。

## 大会の各種PR活動



オリンピック：パラリンピック、ラグビーワールドカップに向けた、各大会の紹介ブースや、各種PR活動を実施。

# 大会気運の醸成

## 【参考】聖火リレーの検討状況 (組織委員会公表資料より抜粋)

- ◆ 2017年8月頃に、オリンピック聖火リレーのコンセプトをIOCに提出予定
- ◆ パラリンピック聖火リレーのコンセプトは2018年2月頃に提出予定

### 主なルール

- 聖火リレーは100日以内（パラリンピック聖火リレーは最低7日）
- 聖火を分けて運んではならない。

### 近年の状況

- 2016年リオ大会 95日、ランナー12,000人、約20,000km移動
- 2012年ロンドン大会 70日、ランナー 8,000人、約12,875km移動

### 聖火リレー検討体制（案）

組織委員会内に、聖火リレー検討委員会（組織委員会、国、都、外部有識者等）を設置。コンセプトやルートの基本的な考え方を検討。また、検討事項に係る関係者間の合意形成の場である聖火リレー調整会議により協議・調整。

詳細は、地方公共団体の協力を得て、検討・実施していくことを想定。

# キャンプ地誘致

# キャンプ地の誘致

## 【主な取組】

- 国内外に向けたキャンプ地の誘致活動の実施
- キャンプの受入れに必要な施設の整備
- 市内の関係団体やトップチーム、宿泊事業者等との連携
- 東京都や組織委員会、近隣自治体等と連携した取組の実施
- キャンプ地決定後の取組

## 【取組によるレガシー】

- キャンプ実施国の選手と市民との交流により、国際交流の機会を拡充
- キャンプの実施により、本市の知名度が向上

## キャンプ地の定義

Tokyo2020では「**事前キャンプ地**」と呼ぶ。

参加各国・各地域の選手団や競技チームが、**任意に実施する大会期間前の事前トレーニングの場所**。

選手団によって、実施しない場合や、実施する場合でも、自国はもとより、開催国以外でキャンプを実施し大会直前に入国するケースもある。

また、様々な要因によって方法や時期、規模なども異なり、一つの選手団でまとまってキャンプを実施する場合もあれば、競技団体や競技種目ごとに異なる場所で実施する場合もある。

上記の通り、**キャンプの実施方法は様々**で、かつ、**キャンプの実施に係る一切の決定権は選手団が有する**。



## 事前キャンプ地の要件（競技）

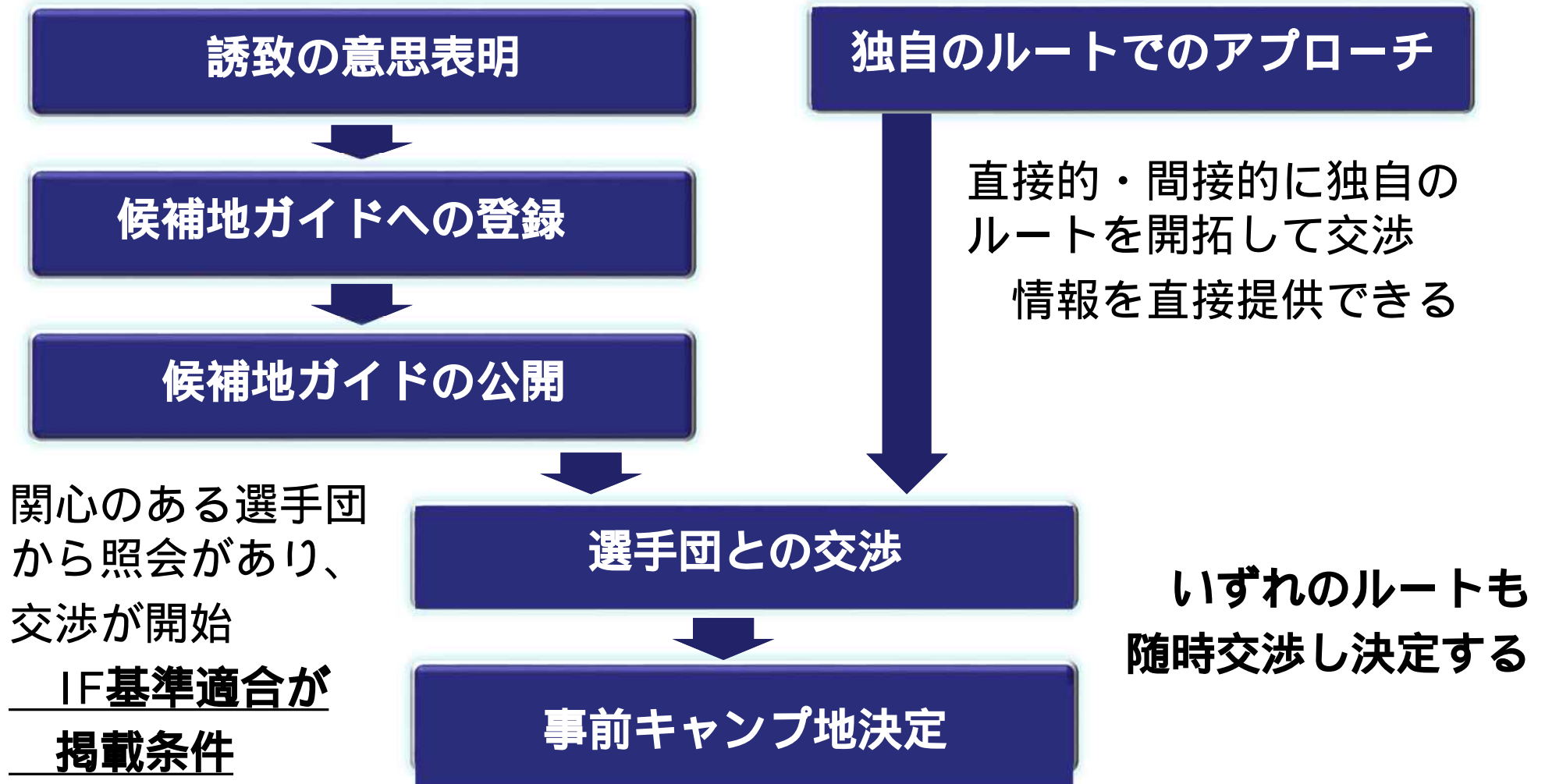
機能	主な要件
練習施設	トレーニング会場として、各競技IFの技術要件を満たす機能や仕様が備わっていること（IF基準適合）
宿泊施設	旅館業法（昭和23年法律第138号）の「ホテル営業」「旅館営業」「簡易宿所営業」許可を受けている施設、貸室・貸家施設、又は大学の学生寮や合宿寮などの施設であること

IF基準を満たしていない各国との交渉によりキャンプ地となる場合がある。  
本市の施設も同様の対応となる。

## 事前キャンプ地誘致に向けた手順

【組織委員会を通じた情報提供】

【組織委員会以外のルート】







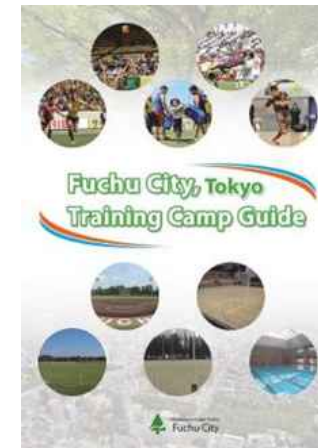
## 「東京 事前キャンプガイドfor2020」への掲載



東京都が作成しているオリンピック等の施設情報データベース（ホームページ）に掲載し、市の施設情報等を各国に提供。

## 府中市スポーツキャンプガイドでのPR

キャンプ地に活用できる市のスポーツ施設や宿泊施設等を掲載したパンフレット（日本語版、英語版）を作成し提供。



各ガイドに掲載している施設 （一部の施設はいずれかのガイドのみ）

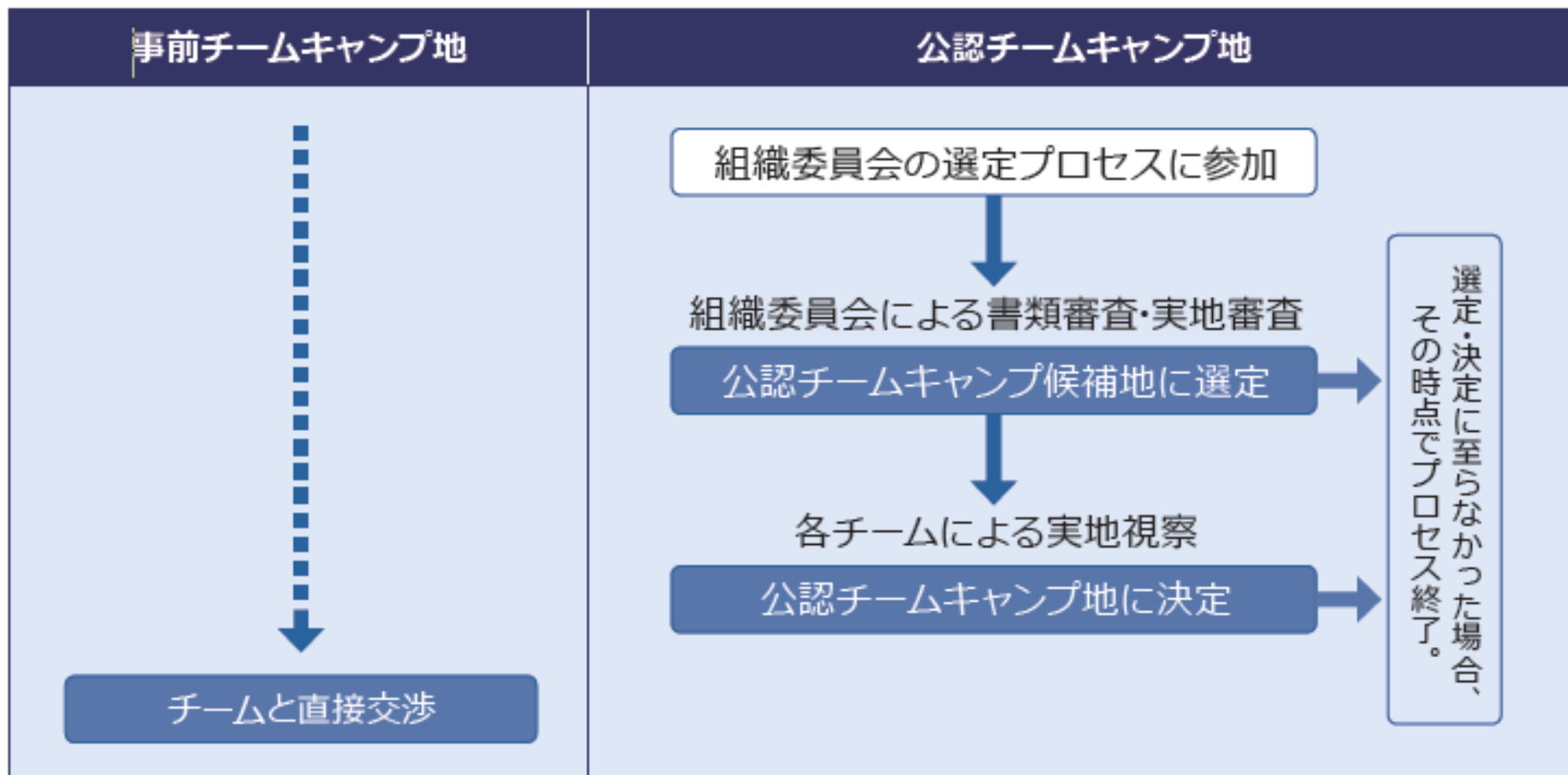
機能	掲載施設
練習施設	総合体育館、市民サッカー場兼ラグビー場、市民陸上競技場、朝日サッカー場、生涯学習センター、サントリー府中スポーツセンター、東芝ラグビー場、市民球場
宿泊施設	ホテルコンチネンタル府中、セミナーハウスクロス・ウェーブ府中

## キャンプ地の定義

～ 9月 XX 日	9月 XX 日～大会終了
事前チームキャンプ地	公認チームキャンプ地
組織委員会の管轄外	組織委員会による一元管理
大会期間前	大会期間
宿泊費、移動費、食費等は チームが負担	宿泊費、移動費、食費等は 組織委員会が負担
RWC2019に関する商標等の使用権利なし	RWC2019に関する一定の商標等の使用権利あり

府中市は**公認チームキャンプ地**を目指しています

## キャンプ地誘致の手順



## 公認チームキャンプ地の要件

機能	主な要件
宿泊施設	50～60名（選手＋スタッフ）が宿泊
練習グラウンド	ロッカー・医務室等の施設を完備した天然芝ラグビーピッチ
屋内練習場	十分な高さのあるバスケットコート1面以上の屋内施設（体育館）
ジム	フリーウェイト中心のトレーニング用スペース&設備
プール	時間貸切可能な屋内プール （25m×3レーン以上が推奨）

各施設は30分以内で移動可（高速道路利用可）

## 公認チームキャンプ地誘致に向けた流れ

時期	手続き等
2016年12月	組織委員会へ申請・書類審査
2017年1月～3月	組織委員会による実地審査
2017年夏～	「公認チームキャンプ候補地」の承認
2017年秋～	組織委員会によるチームへの情報提供 チームによる実地視察の希望地選択
2017年秋～2018年春	チームによる実地視察（1回目） 「公認チームキャンプ地」決定（以後順次）
2018年秋～2019年春	チームによる実地視察（2回目）
2019年夏～秋	「公認チームキャンプ地」として受け入れ準備

# ボランティアの育成支援

## 【主な取組】

- 市民のボランティアへの参加の促進
- 市民のボランティアに関する啓発講座等の開催
- 大会期間中に必要とされるボランティアの育成支援

## 【取組によるレガシー】

- 市民のボランティアへの理解の深まりと参加意識の向上
- ボランティアへの理解・参加により、市民協働への意識が向上



## 大会関連ボランティア

	大会ボランティア	都市ボランティア
運営主体	組織委員会	都
活動場所	競技会場、選手村などの大会関係施設	空港、主要駅、観光地及び競技会場の最寄駅周辺
活動内容	観客サービス、競技運営のサポート、メディアのサポートなど	国内外の旅行者に対する観光・交通案内及び競技会場の最寄駅周辺における観客の案内
規模	合計で9万人以上を想定	
その他	2018年夏ごろ募集開始（RWCに向け2017年末から一部前倒し）	

# ボランティアの育成支援

## 市として想定しているボランティア

【現在】

観光ボランティア

スポーツボランティア

環境ボランティア

語学ボランティア

福祉ボランティア

その他のボランティア



大会関連ボランティア

大会ボランティア

都市ボランティア

市独自のボランティア

市内の観光スポットの案内や  
キャンプ実施国のおもてなし  
に関わるボランティア

【大会時】

# スポーツ・文化の発展

## 【主な取組】

- スポーツを「する」・「観る」・「支える」・「育てる」環境の充実
- 障害者スポーツの振興
- 府中市における文化プログラムの発信

## 【取組によるレガシー】

- 地域に根ざしたスポーツタウン府中の発展
- パラリンピック競技の普及を図り、共生社会を実現
- 「心のバリアフリー」を推進
- スポーツや文化を通じた、本市への愛着や誇りの醸成
- スポーツへの高い関心をきっかけとした、市民の健康増進や地域コミュニティへの関心の喚起

## 「府中駅伝競走大会」にオリンピックを招いた交流



スポーツ大会でオリンピック、パラリンピアン等のスポーツ選手を招き、市民と交流を図る

## 「ボールふれあいフェスタ」での障害者スポーツの体験



毎年、トップチームの協力により実施しているイベント内で障害者スポーツの体験会を実施。

## トップチームの試合観戦・応援機会の拡大



トップチームの協力により、市民の観戦・応援機会の提供を図る。

## 市民スポーツ賞の贈呈



国内外のスポーツ競技大会で優秀な成績をおさめた市民や市内団体に対して、その栄誉をたたえるため、「府中市民スポーツ賞」を設け顕彰。

## 障害者スポーツの振興

**パラリンピック**：世界最高峰の国際障害者スポーツ大会であり、人間のもつ能力の可能性に気づく機会でもある。

- 東京大会は、同一都市で2回目のオリンピック・パラリンピックを同時に開催する初めての大会。大会そのものの成功はもちろんのこと、障害者の社会参加の促進や多様性への理解の推進などを図る。

パラリンピック競技をはじめとする障害者スポーツなど、**誰もが参加可能なスポーツ体験のできる機会**を創出。また、講演会やイベント等の様々な機会を通じて、**障害者スポーツへの理解を促進**。



## 文化プログラムの展開

**文化プログラム**：オリンピック・パラリンピック開催時に展開される複数の文化的なイベントから成るプログラム。短くとも選手村の開村期間に開催することがオリンピック憲章に定められている。

- ロンドン大会では、北京大会終了後から開始し、英国全土でイベント総数約18万件のプログラムが実施された。
- 東京大会では、リオ大会後から「**東京2020文化オリンピアド**」として、公認プログラム（参画プログラム）の認証制度を設け、全国で文化プログラムを実施し、地域の活性化につなげる。

**市の事業や市内での文化イベントも、文化プログラムに位置付け展開**

**東京2020オリンピック・パラリンピックへの参加**

# 魅力発信

## 【主な取組】

- 観光資源の発信
- 国内外の来訪者の受入れに伴う環境の整備
- ホストタウン構想への参加の検討

## 【取組によるレガシー】

- 国内外の観光客が本市の魅力を発見し、観光客が増加
- 本市の地域資源をブランド化し、地域経済を活性化

## 観光資源の発信



漫画「ちはやふる」をテーマに、片町文化センターのラッピングの実施やフェスティバルなどを開催。

## 「ラグビーのまち府中」の推進



トップチームや市内関係団体で構成する「ラグビーのまち府中推進委員会」によるラグビーをテーマとした地域活性化に取り組む。

## 観光マップの多言語化



外国人観光客の市内周遊のための多言語化の観光マップを作成。

## 市内掲示板等の多言語化



市内の府中駅周辺及び多磨駅周辺のサイン及び多言語の状況調査のほか、駅前案内板の多言語化の実施。



## 無料公衆無線LANの整備



公共施設や観光客の訪問が見込まれるスポットへの無料公衆無線LANの整備

## スタジアム通りの整備



大会開催会場となる東京スタジアムに隣接するスタジアム通りの電線類地中化事業や、環境対策型舗装事業、自転車走行空間の整備。

## 多言語化への対応

2016年の年間訪日外国人観光客数は2400万人と過去最高。2020年オリンピック・パラリンピック東京大会が開催される平成32年には、世界各国からさらに多くの外国人旅行者が日本を訪れることが見込まれる。

- 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向け、表示・標識等の多言語対応の強化・推進のため、国の関係行政機関、関係地方公共団体、関係機関、民間団体及び企業等で協議会を設置
- 交通機関や道路、飲食・宿泊等の観光・サービス施設の案内表示・標識、音声案内、パンフレット、ICTツールなどの各種媒体が検討の対象

**外国人の受け入れに向けた環境整備として、案内表示や誘導表示の多言語化に向けた検討を開始**



## ホストタウンについて

ホストタウン：オリンピック等に向け、スポーツ立国・グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等の観点から、希望する自治体を「ホストタウン」として国が登録し、当該自治体と参加国・参加地域とが相互交流を図る取組。

- 大会等に参加するため来日する選手等、 大会参加国・地域の関係者、日本人オリンピック・パラリンピアンとの3つの分野で交流計画を作成
- 登録自治体 138件（都内6区市）
- 平成29年度も登録を受付（年3回程度）

市では、友好都市ウィーン市ヘルナルス区の所在する「**オーストリア共和国**」を念頭に交流計画を作成し、登録申請を行う予定。

なお、キャンプ地の動向により、追加国を検討。

# 取組の推進に当たって

## 【今後の取組】

- 5本の柱に基づき、各施策・事業を展開
- 実施に当たっては、本推進会議のメンバーとの連携・協働が必要不可欠
- 個別的な課題は専門部会でさらに検討

ラグビーワールドカップ2019及び東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、地域の活性化に全市を挙げて取り組み、本市の持続的な発展につなげていくよう、ご理解・ご協力をお願いします。